

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成と授業の充実を図る。
- (2) 進学指導特色校(グローバル・リーダーズ・ハイスクール)としての学力向上に係る内容の充実を図る。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 国公立大学志望90%という生徒の希望進路の実現を支援する。
※国公立進学率を80%以上に引き上げるとともに全体の目標進学率の向上を図る。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と部活動・自治会活動・学校行事を両立させうる生徒を育成する。
※1年次部活動加入率90%以上の維持を図る。・・・オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 授業、補習、講習に加え、海外研修や国際交流において実践的英語力の向上を図る。
- (4) グローバル化対応・ICT化対応の推進
 - ア 授業におけるICT化・国際理解教育を推進する。
- (5) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。
- (6) 志学の充実

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) 国際交流事業の充実と発展を図る

4. 地域・関係諸機関との連携が充実した学校

- (1) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。
※平成26年度までに、すべての教職員・生徒が何らかの地域・関係諸機関との連携に関わる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 今年度も「学力の充実と進路希望の実現」を大きな重点目標として取組んだ。 ・「学習意欲の高い生徒に対する組織的な指導」(教職員)の肯定的評価が92.7%(昨年89.8%)、「先生方は分かりやすく、興味深い授業をしている」(生徒対象)の肯定的評価が88.8%(一昨年比12.5ポイントアップ)であり、成果をあげることができた。 ・一方で、「到達度の低い生徒に対する組織的指導」(教職員対象)の項目が肯定的評価63.6%・「他教科の教員と話し合う機会がある」(教職員対象)の項目の肯定的評価が69.6%で他の項目と比較しても低い。このことが次年度への課題である。</p> <p>【生徒指導等】 ・「総合的にみて、学校は生徒の学力向上、人間的成長のために尽力していると言える」(生徒対象)の肯定的評価は90.9%(昨年比1ポイントアップ)、平成24年度から課題としていた「命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒対象)の肯定的評価は一昨年から29.4ポイントアップした83%であった。引き続き様々な行事や研修、日常の指導により、豊かな人間性の涵養に努める。</p> <p>【学校運営】・「教職員が意欲的に取り組める環境にある」(教職員)の肯定的評価は98.1%(昨年比1.5ポイントアップ)であり、他の3項目も90%を超える。次年度も継続して、学校全体で学校目標に取り組む。</p>	<p>第1回(平成26年6月26日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒のこれからを支えていくうえで、国際交流は、生徒が何をできるようになったかが大事であると思う。その点を踏まえ、ますますの国際交流事業の充実を期待する。 [今年度も、従前の事業を継続するとともに、同窓会の支援を得て、「大手前海外研修」を創設、今年度はイギリスのケンブリッジ大学研修(10名)を実施、次年度はアメリカのスタンフォード大学を予定していると回答] ○ キャリア教育において、生徒たちに先を見せる必要がある。そのため、大手前高卒業生とのつながりの仕組みを構築すべきである。 [校内の進路説明会やHR活動、12月に実施する「集中セミナー」での卒業生の方の活用を充実させていくと回答] <p>第2回(平成26年12月10日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートは、教科指導を多方面から見るという意味でも有効である。勉強が好きになるというのは、先生との出会いが大きい。 [授業アンケートも参考にしながら、教員の授業力向上を図っている。特に経験の少ない教員には十分に活用していると回答] ○ 12月に行われている集中セミナーは大手前高校の特色行事の一つである。講師について同窓会(金蘭会)や地域人材をさらに活用してほしい。 [今後とも活用していきたい。学校全体でさらに取り組んでいくと回答] <p>第3回(平成27年2月4日実施)・・・自治会生徒2名がオブザーバー参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会活動について、生徒みんなが参加できる社会活動なども進めていくことが大切である。 [今後進めていきたいと回答・・・後日、生徒による「大阪城清掃ボランティア活動」を実施]

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校</p>	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の更なる工夫と改善を進める。</p> <p>イ 生徒の自学自習力の育成に努める。</p>	<p>ア・教師力の向上を図る。</p> <p>① 日常的な授業見学や研究事業の実施、授業内容・技術等検討会による教員の授業力の向上を図る ※授業アンケートの実施[7月・12月]とその分析及び課題解決</p> <p>② 校内教職員研修の充実 ※経験の少ない教員に対する研修 1. 経験豊かな教員による個別研修[年間のべ15回] 2. 定時制教員との合同研修[年間3回] 3. 他校教員との合同研修[年間3回] ※進路指導に係る研修の開催</p> <p>③ 校外・海外研修への参加増進 ※教職員の60%が海外研修に参加した経験を持つ。(マレーシア・シンガポール・韓国等)</p> <p>イ・SSH事業の推進とコアSSH校としての取組みの充実を図る</p> <p>① 「サイエンス探究」(2年後期から3年前期・文理学科)の充実</p> <p>② 全国規模の数学発表大会(マスフェスタ・8月)・中学生対象数学講座を含めた取組みの充実</p> <p>③ 進学指導特色校としての取組みの充実を図る。 ※各種研修、2年サマースクール(7月)、1・2年集中セミナー(12月)の実施と学生科学賞や科学オリンピック等への参加を推進する。</p>	<p>・授業アンケートによる肯定的評価80%以上 (H25年度は、2回平均80%)</p> <p>・実施回数の達成度とアンケートによる充実度 (H25年度は、個別研修14回・合同研修各2回実施、進路研修14回実施した。それらを上回ることが目標)</p> <p>・参加割合の達成度 (H25年度は50%が参加経験)</p> <p>・達成度(実施回数も含む)各種アンケートでの肯定的評価70%以上</p>	<p>ア・授業アンケートでは、教員[教諭・常勤講師・非常勤講師]の授業指導について、全教科教員平均で、7月実施は81%(非常勤講師を除けば、83%)、12月実施は84%(非常勤講師を除けば、86%)の肯定的評価を得た。次年度も更なる向上を図りたい。(◎)</p> <p>・経験の少ない教員に対する研修について、経験豊かな教員の指導による個別研修はのべ11回実施、全定の合同研修は2回、他校との合同研修は1回実施した。進路指導に係る校内研修は各種30回実施できた。次年度も継続して実施したい。(○)</p> <p>・学校行事等に係る海外研修へは、本年度は8名が参加した。過去4年間でのべ63名が研修を体験し、所属教員の6割が参加し、資質向上につながった。(◎)</p> <p>イ・本年度も様々な事業を展開し、いずれも大きな成果を得た。①の「サイエンス探究」発表会(7月)においては、54本の研究発表があり、大きな成果をあげた。②の「マスフェスタ」(8月)では、全国46校600名が参加し、参加者アンケートでは肯定的評価がほぼ100%であった。次年度も継続してさらに充実させたい。中学生対象の出前授業は実施できなかったが、数学講座は実施できず次年度の課題としたい。③の各種取組も充実した。学生科学賞は大阪科学技術センター賞を受賞した。(◎)</p>
<p>2 豊かな人間性を涵養する学校</p>	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 授業、学校行事、自治会活動、部活動、国際交流事業や、関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに、生き方やあり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成する。</p>	<p>ア 規範意識の醸成</p> <p>① あいさつの励行と服装指導</p> <p>② 遅刻指導の充実 年間2000回以内目標</p> <p>③ あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「命の尊さや社会のルールについて学ぶ」機会を増やす。</p> <p>④ 教育相談体制の充実と学校独自のスクールカウンセラーの配置の継続(年間12回)</p>	<p>・達成度・保護者、外部からの評価</p> <p>・2000回以内の達成 (H25年度は3284件)</p> <p>・達成度、内容の充実、学校教育自己診断での肯定的評価が80%を超える (平成25年度76.5%)</p> <p>・配置の継続と回数・内容の充実度、アンケート</p>	<p>ア・学校教育自己診断「命の尊さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒対象)における肯定的評価は昨年から大幅に10ポイントアップした83.0%であった。あいさつ励行・服装についても改善された。(◎)</p> <p>・遅刻指導は、年間目標の2,000件以内の達成には届かなかった。(26年度2613件)次年度は、年間2,000回以内の目標を達成したい(△)</p> <p>・学校教育自己診断「生徒が人間同士が互いを尊重する人権の大切さについて学ぶ機会がある」(教職員対象)の肯定的評価は90.9%で昨年より1.1ポイントアップ、「人権尊重の大切さについて学ぶ機会がある」(生徒対象)は82.2%で昨年よりさらに5.7ポイントアップと大幅に向上した。(◎)</p> <p>・スクールカウンセラー配置も継続され、生徒・保護者等対象年間73件の相談があり、適切に対応した。(○)</p>
<p>3 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p>	<p>(3) 国際理解教育の推進</p> <p>ア グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成するとともに、幅広い教養と英語力を身につけ、問題発見・解決に向けて主体的に取り組む、使命感を持ってリーダーとしてグローバルに貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア 国際交流の推進</p> <p>① 英国ペングライズ高校との交流・来日高校生との交流、本校生徒の海外研修の充実を図る。 ※マレーシア・シンガポール等に加えてイギリスへの研修も検討</p> <p>② イングリッシュキャンプ(3月)[大阪大学在籍留学生との交流等]の開催</p> <p>③ 1・2年生対象の集中セミナー(12月)における国際関係機関との連携の充実</p> <p>④ 平成27年度開催予定の「高校生国際科学会議」(中国・韓国・タイ・日本)の準備</p>	<p>・達成度、内容の充実、アンケート</p> <p>・実施の有無と内容の充実度</p> <p>・国際理解教育関連講座の5講座以上の開講(全70講座中)、内容の充実度</p> <p>・達成度(十分な準備ができたかどうか)</p>	<p>ア・英国ペングライズ校から派遣された高校生等(12名)との交流、海外研修には、本校生145名(1・2年生の20%)が参加した。イングリッシュキャンプは、生徒40名とネイティブ12名が参加して研修を行った。(◎)</p> <p>また、新たに同窓会(金蘭会)の支援を得て、「大手前海外研修」を実施した。今年度は、イギリスのケンブリッジ大学に10名を派遣、次年度はアメリカのスタンフォード大学を予定している。(○)</p> <p>・2日間で70講座を実施し、様々な機関との連携ができた。(新たに国際活動体験学生講座や外資系企業講演も開講。国際理解教育関連講座を5講座開講)次年度も拡大して継続したい。(○)</p> <p>・学校行事等における様々な場面で外部人材の活用を行った。例えば、人権学習においては、国立民族学博物館准教授・NPO法人・大学関係者等の協力を得た。(○)</p> <p>・「高校生国際科学会議」の準備は予算的な仕組みではできなかったが、他は平成27年度に行うこととした。(△)</p>